

関係各位

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

平成 28 年度病害虫発生予察特殊報第 3 号を送付します。

平成 28 年度病害虫発生予察特殊報第 3 号

1. 害虫名 アシビロヘリカメムシ (*Leptoglossus australis* Fabricius)

2. 発生作物 ニガウリ

3. 発生経過

平成 28 年 10 月に高知県東部の露地ニガウリにおいて、果実に寄生するカメムシ類の幼虫が多数確認された。この幼虫を県農業技術センター昆虫担当で同定したところ、アシビロヘリカメムシであることが確認された。

本種は主に奄美大島以南の南西諸島に分布し、他都県においては鹿児島県、長崎県、徳島県、東京都で発生が確認されている。

4. 形態・生態

成虫は体長 17～25mm。体は黒褐色で、下面には多数の橙色斑がある。前胸背は中央前方に三日月型をした橙色の帯があり、側角は鋭くとがる。後脚は長大で脛節が葉状に広がっている（写真 1）。

幼虫は 1～5 齢を経過するが、4 齢までは頭部、胴部が橙黄赤色、胸部、脚部などは黒褐色である（写真 2、3）。

卵は長さ 1.8mm の円筒形で光沢のある黄土色、寄主植物の茎、つる、葉柄に 10～25 個産み付けられる（写真 4）。

5. 被害

ウリ科植物、特にニガウリを好んで吸汁加害し、キュウリ、ヘチマ等も加害する。ウリ科の寄生植物が少ない場合、カンキツ類等を加害することがある。被害を受けた果実は、吸汁部や果実全体が硬化し食用に適さなくなる。

6. 防除対策

(1) ニガウリにおける登録薬剤は、トレボン乳剤（1,000 倍、収穫前日まで、3 回以内）、アディオ
ン乳剤（2,000～3,000 倍、収穫前日まで、3 回以内）である。

(2) 栽培終了後のニガウリ等のウリ科植物は、アシビロヘリカメムシの発生源となる可能性があるため除去する。

(3) キュウリ等の施設栽培においては、防虫ネットによる成虫の侵入防止を図るとともに、発生を確認した際は早期防除に努める。



写真1 アシビロヘリカメムシ (成虫)



写真2 アシビロヘリカメムシ (3、4 齢幼虫)



写真3 ニガウリ果実を吸汁する
アシビロヘリカメムシ



写真4 卵塊 (孵化後)